

6 学年の栽培計画



栽培する植物をどう選ぶか

「生物とでんぷん」ではインゲンマメ（5学年の項参照）やジャガイモを育てながら、ヨウ素液などを使って、植物のデンプンのできかたと日光との関係を推論します。

ジャガイモとケナフは6～7月の栽培時期が異なるので、農園にゆとりがないときはケナフは大きめのプランターに植えるとよいでしょう。

ジャガイモの収穫後は9月からダイコン（3学年の項参照）かアブラナを栽培すると卒業時のプレゼントにもなります。アブラナに来る虫、アブラナの出す酸素調べ、雑草との共生や競争など、環境の学習にも応用できます。



他教科や総合的な学習の時間との関連での配慮点

社会科や国語科などで地球環境問題について考

えたり、議論を交わしたりする機会の多い学年です。ここではケナフを栽培することで、森林資源の保全と地球温暖化について考える計画としました。ケナフはそれだけ単独で扱うのではなく、コウゾやミツマタなど、日本の伝統的な非木材紙原料ともつなげて扱いたいものです。卒業を控えて、ケナフで紙をすき、卒業証書をつくったり、お世話になった方々にカードをつくりお礼の気持ちを表わしたりして、6年の学習の締めくくりとすると、忘れられない思い出の品となるでしょう。

（協力 / 毛利澄夫）

月	学期	関連する単元	ジャガイモ	ケナフ	
3	休	生物とでんぷん			
4					
5	一学期				
6					
7	休				
8					
9	二学期				生物のすむ環境
10					
11					
12					
1	三学期				
2					